



生活シーンでこんなに使える！
Facebook 41の提案
渡辺英伸・著 日本経済新聞出版
世界中で使われているSNSの一つFacebook。本書は、初心者へのFacebookの特徴や登録方法の解説に始まり、現在使っている人への有効な利用方法も紹介しています。

地域の歴史を知ろう

ウキウキ！ 直家出世バス

岡山を代表する戦国大名・宇喜多氏ゆかりの地を巡る公民館講座「歴史探訪★ウキウキ！ 直家出世バス」の第2回目を開催します。
第1回目（5月19日）に参加していない人にも、講師が



亀山城跡を見学する参加者（第1回）

- ▽日時 9月12日（水）午前9時～午後5時
- ▽定員 40人
- ※9月1日から受付開始。先着順・定員になり次第締切。
- ※第1回に参加した人も申し込みが必要です。
- ▽講師 出宮徳尚さん
- ▽参加費 300円（登録料）
- ▽行き先 明禪寺城跡、岡山城など
- ※出発前に、公民館で約1時

間の勉強会を行います。
▽集合場所 中央公民館（邑久）
■問い合わせ・申込先 中央公民館

作ってみよう

着物を使った布ぞうり

エコ講座では、さまざまな色や柄の着物をほどいた布を使って、布ぞうり作りを行います。



さまざまな色や柄の着物の布を使った布ぞうり

- 例年、参加希望者が多いため、今年は9月と10月の2回に分けて開催します。
- 講座で作り方を学び、不用になった着物を再利用してみませんか。
- ▽日時 9月25日（火）、10月23日（火）
- ※時間はいずれも午後1～4時です。
- ▽場所 中央公民館（邑久）

- ▽講師 土松美智江さん
- ▽定員 各回25人
- ※9月1日から受付開始。先着順・定員になり次第締切。
- ▽参加費 300円（年間登録料）
- ▽持ち物 はさみ、針、糸、ものさし
- 問い合わせ・申込先 中央公民館

Books



ふるさと60年 戦後の日本とわたしたちの歩み
道浦母都子…文 金斗鉉…絵 福音館書店

第二次世界大戦後から現在まで、日本のある町の移り変わりを描いた絵本です。過去、現在、未来のつながりを感じることができ、「今」を生きる私たちに家族やふるさと

今月の月末図書整理日（お休み）は、
9月28日（金）です。
■貸出し・問い合わせ先
瀬戸内市立図書館 ☎0869-22-3761
長船町公民館図書室 ☎0869-26-2501
牛窓町公民館図書室 ☎0869-34-5663
HP <http://lib.city.setouchi.jp/index.htm>



巻の九十二

前島に残る石切り場の跡

徳川期大坂城築城残石群

大坂（阪）城と聞くと豊臣秀吉が築いたきらびやかな城を思い浮かべるのではないのでしょうか。

しかし、現在の大阪城は、豊臣秀吉が築いた城ではなく、後に徳川幕府によって再建された大坂城（天守は昭和6年に復興）なのです。発掘調査では、豊臣期の石垣が地下深くから見つかっています。

大坂城の再建

豊臣期の大坂城は、慶長20（1615）年の大坂夏の陣で、豊臣家滅亡とともにすべ

て焼失してしまいました。徳川幕府はその5年後の元和6（1620）年から寛永6（1629）年にかけて大坂城再建の天下普請を行いました。

再建は、多数の西国大名に普請が命じられる大工事で、諸大名は石高に応じて分担の規模が決まりました。再建された大坂城は、豊臣時代の

前島の残石群の調査

前島の山の中には、切り出された石があることは、昔か

ら知られていました。昭和51年に柴田守氏（牛窓町牛窓）が大坂城天守閣に残石の写真を持ち込み、翌年に大阪城天守閣の学芸員が調査を行いました。その結果、「前島の石切丁場遺跡は元和6年に開始された現大坂城築城工事にかかわるものであり、しかも往時の状況をそのまま伝存しておりその重要性は小豆島にある『史跡大坂城石垣石切丁場跡』にも匹敵しうるもの」で、「大坂築城史上、更に日本土木史上まことに重要な遺跡」（岡山県前島所在の石切丁場遺跡について）1978年大阪城天守閣現地調査見解とされました。

往時の作業を伝える残石群

前島の東山には、「岩下し」や「丁場」など石切り場に関する小字や呼び名が残っており

り、山中に4カ所（A、D地区）の残石群があります。展望台から西へ降りたA地区には、切り出す前の岩盤（母岩）、母岩から大割された石、整形されて浜に下ろすために並べられた石、整形過程で捨てられた石などがそのまま残っています。



分銅紋（左）／輪違い紋（右）

いくつかの残石には刻印が残されており、分銅紋と輪違い紋が大坂城の石垣に残る刻印や普請分担図などから、松江藩堀尾家ものとは分かりました。また、同じ石切り場には、鳥取池田家の刻印もあることが分かっています。しかし、なぜ日本海側に

所領のある大名が前島から石を切り出したのかは、明らかになっていません。

海を行く石

切り出された石は、船で大坂まで運ばれました。寛永元（1624）年に来日した朝鮮通信使の副使姜弘重の記録『東槎録』には、「牛窓自ら来たる時、海中を望み見るに、点々たる小島有り。之れに就き乃ち去る時、見る所の浮石は載する所の船也。一船僅かに一石を載す。而るに屹然として山岳の如し。是くの如き者海を蔽う。物力の雄鉅なる、功役の浩大なるを見るべき也」と、山のように見えるほど大きな石を船で運ぶ様子が記されています。

秋のハイキングシーズンに、大坂城築城残石群を訪ねてみませんか。そこには、往時を思い起こすことができる石切り場の跡が広がっています。前島のフェリー乗り場から残石群までは、徒歩で約1時間です。



並べられた残石